

育G新聞

Vol.5

イクジイが日本を元気にする。

毎月1回連載

育G新聞編集部 編集協力：
NPO法人 フザーリング・ジャパン
NPO法人 孫育て・ニッポン

育G インフォメーション

イクジスクール開講

- 【日程】7/23(月)
『セカンドキャリアで社会貢献を(仮)』
- 【時間】午後6時30分～午後8時30分
- 【参加費】各3,150円
- 【場所】東京都中央区
京華スクエア・ハイテクセンター
- 【対象】子育て、孫育て、社会貢献に
関心のある男性
- 【主催】特定非営利活動法人
フザーリング・ジャパン
- 詳細→ www.fathering.jp/ikuji-school

NPO法人 孫育て・ニッポン 会員募集中！

家庭や地域で「孫育ての笑」を広げる仲間
を募集しています。孫の有無、年齢、性別は
問いません。

詳細→ www.magosodate-nippon.org/

全国孫育て講座・講演情報掲載！

NPO法人 孫育て・ニッポンのサイトに、
新しく「全国の孫育て講座・講演情報
コーナーができました。ぜひ、チェックして
みてください。

詳細→ www.magosodate-nippon.org/

★育G発見★

No.5

モータースポーツドライバー
モンスター田嶋さん

夢を追い続ける姿、ものを創る楽しさを子どもたちに。

18歳でレースデビュー、62歳の現在も現役ドライバーとして活躍している
田嶋伸博さんは、山を車で駆け上がるヒルクライムレースの世界チャンピオンだ。
10分の壁を破り、現在6連覇中。そして、今年ガソリン車でなく
電気自動車(EV)でレースに参戦するという。そこには、未来への思いがあった。



「7歳の時に、ドライバーになりたい
と思いました。あれから55年、今も
その夢を追い続けています。～けれども
タイムリミットはどうしてもあるので、
今は一分一秒も無駄にしたくないです
ね。」

田嶋さんはアメリカ・コロラド州で
開催されるパイクスピーク・インターナショナル・ヒルクライムにEVで参戦
する。なぜ、あえてEVで挑戦するのか。
それは、自分自身への挑戦であり、今
の美しい地球を未来の子どもたちに
残したいという思いからだ。

「今回レースで走る車のデザインは、
僕が書き起こしたものから仕上げてい
きました。子どもの頃から車が好き
で、車を通して創る喜びを知りました。
便利な世の中で育った子どもたちにも、

自分の手で創りだす楽しさを知って
ほしいし、車は移動手段というだけ
でなく、もっと魅力的なものであるこ
とも伝えたいですね。そして、同世代の
シニアの方たちには、いくつになっ
ても夢を追い続け、挑戦する心を感じ
もらいたいです。」

この日、田嶋さんは「Team APEV
with モンスタースポーツ」パイク
スピークEVチャレンジ <ジュニアプロ
ジェクト> の一環として、地元静岡県
磐田市の中学校でレースカーを披露し、
自分の経験とこれからの夢を語った。

「はじめは緊張していた子どもたちも
真剣に僕の話を聞いて、さいごには
声援を送ってくれました。高地ではEV
の方がパワーは落ちないですし、自分
が持つガソリン車での世界最速の記録
“9分51秒278”をぜひ破りたい
ですね。」



2012パイクスピーク・インターナショナル・ヒルクライム
現地時間8/12(日)決勝 <http://www.apev.jp/teamapev/>

育Gの極意



—special—

新入学 一緒に選ぼうランドセル
夏休みになると始まるランドセル商戦。昔はもう少し遅かったのだが、最近は孫が帰省する夏のシーズンに売り場をつくるお店が増えてきた。

ランドセル、一言でいえば‘小学生が学校で使う教科書やノートを入れるもの’だが、ランドセルの作り手たちは、夢をふくらませ小さな背中が背負うランドセルに、さまざまな思いを込めている。
大手ランドセルメーカー 株式会社協和 専務取締役 若松秀夫さんにお話をうかがった。

「今の子どもたちが6年間ほぼ毎日使うものは、ランドセル以外にまずないでしょう。だからランドセルは第一に安心・安全であり、丈夫でないといけないと思っています。ランドセルを背負うことで学校へ行くスイッチが入り、毎日使うことで子どもたちのパートナーに

なっています。子どもたちにはランドセルを通して、物を大切にする心も育てほしいですね。」

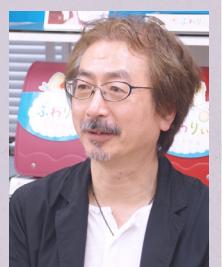
ランドセルを購入しているのは、実は半数以上が祖父母だというデータもある。最近はさまざまな色・デザインがあるので、子どもたちも目移りして迷うことが多いようだ。一緒に買いに行く際の選ぶコツを教えていただいた。

「キャラクターなどは、流行りすたりがありますし、デザインもあまり華美なものは飽きやすいと思います。子どもは、自分が今好きなものを選んでしまいかがです。ジイの冷静な目で、軽くて使いやすく、そして長く使えるものをアドバイスしてあげるといいと思います。もし、予算が余ったら、本などを買ってあげるのもいいですね。」

ジイが買ってくれたランドセルには、ランドセルの作り手の思い、一緒に買いに行つた記憶とともに、小学校生活の思い出がいっぱい詰め込まれることだろう。

協和ではこの春から6年間、被災地の子どもたちにランドセルを贈る「がんばれ！被災地の子どもたち!! みんなでランドセルを贈ろう！」や「何でもデビュー応援団」という取り組みを行っている。

「最近の子どもたちは、少し元気がないように感じます。日本の子どもたちがもっと元気になるようにいろいろな形で応援していきたいですね。」



株式会社協和 専務取締役 若松秀夫さん



被災地のこどもたちにランドセルを贈る

育Gスタイル

育Gスタイリスト G・ハヤシがおすすめ！ A4ポケットファイルが入って超軽量なランドセル。

さいきんの小学校、教科書もひとまわり大きく重くなり、A4サイズの教材がふえているのをご存じですか？そんなイマドキの一年生デビューにおすすめしたいのが、超軽量でA4ポケットファイルが入るランドセル。「ふわりいコンパクト」は、サイドの「へり」部分をなくしコンパクトな設計にすることで、A4ポケットファイルが入り、しかも約890gという軽量化を実現しています。その為にイタリアの靴職人が使うミシンを改良して作り上げたというこのランドセルは、子どもたちの夢を応援してくれる新定番となりそうです。—— <http://www.fuwarii.com>



ふわりいコンパクト



従来は「へり」あり。



「へり」がなくて、すっきり！